

様式第1号（閲覧規定第2条）

令和7年3月31日

宮古市議会議長 橋本 久夫 様

宮古市議会議員 落合 久三



令和6年度宮古市議会政務活動費収支報告書

宮古市議会政務活動費の交付に関する条例第5条の規定により、令和6年度の
政務活動費の収支を別紙のとおり提出します。

別紙

1 収入

政務活動費 150,000円

2 支出

(単位：円)

科 目	金 額	備 考
研究研修費	1,428円	市議会議員のコンプライアンスに関するオンライン講習会
調査旅費	2,993円	【行政視察】 耕作放棄地を活用した再生エネルギーと農業再生に取り組む営農型太陽光発電・ソーラーシェアリングについて
資料作成費		
資料購入費		
広報費		
広聴費		
その他の経費	18,000円	議会タブレット端末通信費
合 計	22,421円	

注 備考欄には、主たる支出の内訳を記載すること。

3 残額

127,579 円

宮古市議会政務活動費支払明細書

項目	内容	金額	摘要
研究研修費	(1) 市議会議員のコンプライアンスに関するオンライン講習会 (9/10)		
	講師料	1,428 円	按分による支出
	研究研修費計	1,428 円	
調査旅費	【行政視察】 耕作放棄地を活用した再生エネルギーと農業再生に取り組む営農型太陽光発電・ソーラーシェアリングについて (4/14~16 神奈川県小田原市 合同会社小田原かなごてファーム)		
	昼食代 (4/15)	1,000 円	按分による支出①
	レンタカー利用料金 (4/15)	1,993 円	按分による支出②
	調査旅費 計	2,993 円	
その他の経費	(1) 議会タブレット端末通信費 (令和6年4月~令和7年3月分通信費)	18,000 円	1,500円×12ヶ月
	その他の経費 計	18,000 円	
合 計		22,421 円	

按分による支出額一覧

項 目		研究研修費
【研修会】 市議会議員のコンプライアンスに関するオンライン講習会（9/10） 参加者：白石雅一 畠山智章 今村正 中嶋勝司 西村昭二 小島直也 伊藤清 高橋秀正 長門孝則 松本尚美 落合久三 田中尚 竹花邦彦 橋本久夫		
参加者別 按分額		
	(講師料)	
議員別 按分額	白石	1,428
	畠山	1,428
	今村	1,428
	中嶋	1,428
	西村	1,428
	小島	1,436
	伊藤	1,428
	高橋	1,428
	長門	1,428
	松本	1,428
	落合	1,428
	田中	1,428
	竹花	1,428
	橋本	1,428
	領収額	20,000

注) 小島議員が会計責任者。領収書など証拠書類の原本は、会計責任者の収支報告書に添付。

項 目		調査旅費					
【行政視察】 耕作放棄地を活用した再生エネルギーと農業再生に取り組む営農型太陽光発電・ソーラーシェアリングについて（4/14～16 神奈川県小田原市 合同会社小田原かなごてファーム）							
参加者：田中 尚、落合久三、伊藤 清、西村昭二、中島勝司、白石雅一							
参加者別 按分額							
項目	領収額	田中	落合	伊藤	西村	中嶋	白石
① 昼食代（4/15）	6,000	1000	1000	1000	1000	1000	1000
② レンタカー利用料金（4/15）	11,960	1993	1993	1993	1993	1993	1995
合計		2,993	2,993	2,993	2,993	2,993	2,995

注) 白石議員が会計責任者。領収書など証拠書類の原本は、会計責任者の収支報告書に添付。

宮古市議会議長 橋本久夫様

政務活動費による小田原ソーラシェアリング視察研修報告

2024年5月20日

市会議員・落合久三



- 参加議員：田中尚 落合久三 伊藤清 白石雅一 西村昭二 中嶋勝司
- 視察日程：令和6年4月14日、15日、16日（3日間）
- 視察工程：14日移動日、15日10:00～16:30（午前講座、午後現地視察）、16日移動日
- 視察場所：神奈川県小田原市 合同会社小田原かなごてファーム
- 視察対応：小山田大和氏（同上 代表）

【視察内容と所感】

小田原市も脱炭素先行地域に指定されており、その中で耕作放棄地を太陽光発電を活用してよみがえらせている実践例を視察・研修しました。すでに7基まで完成させ、今日では地銀ではトップクラスの横浜銀行からも太陽光パネル設置に融資を受けるまでになっています。なおこの施設には全国からも多くの見学者が訪れ、小泉元首相も来訪していました。

§ 代表・小山田大和さんのプロフィールを最初に紹介すると、小山田氏は元郵便局員で、父は元警察官僚で、「農業や原発には興味のない人間」だったが、あの東日本大震災と福島原発事故で「人生観が変わった」と話されていました。現在は合同会社の代表を務め、早稲田大学招聘研究員を務めています。

§ 「一次産業・農業の持続的発展を抜きに地域活性化はない」を信条にしています。「かなごて」とは神奈川の「かな」と「御殿場」の「こて」から取ったもの。コメは縄文時代からあり、農業を抜きに社会は形成できない、と強調していました。

§ 耕作放棄地をいかに生き返らせるか。

農業を中心にしないと社会づくりは成り立たない、との強い思いで小田原のミカン畑をみて見ると、イノシシが畑を走り回っている状態でした。そのミカンは「お昼寝ミカン」状態でした。そこで、480坪のミカン畑を借り受け、収穫・販売だけでなくミカンジュース、濃縮ジュースに加工しいろんなところに置いてもらい、少しずつ収益も上がっています。さらにソーラの下で育てたお米で地元の酒造会社と共同で開発した「推譲」は大変好評です。そのほかに放棄地でサツマイモ、サトイモ、ジャガイモ、大豆、落花生の栽培を手掛けています。

§ 当然それらの作物の上にはソーラが設置されており、コメの上のソーラ売電実績は年140万円（360坪 単価18円/kW）、ミカン70万円（200坪 〃12円）、サツマイモ60万円（100坪）、サトイモ・ジャガイモ150万円（514坪 〃18円）、大豆・落花生120万円（単価は非公開）などが実績として作られています。

当初、多くの農家（土地所有者）は「作物を育てる上にソーラパネルは無理」と言っていましたが、受粉にまったく支障がないこと（パネルは間隔をあける）、作物の収穫とソーラの売電で十分に採算が合うことがわかり、広がっていきました。

先に見た通り「荒れ地を耕し、心を耕す」という理念もと、小田原かなごてファームは地域の農業を守り・再生させ、「お昼寝していた土地」に新しい価値を生み出すことに取り組み、少しずつ、確実にその成果が広がっていると感じます。

§ これらの取り組みは、食エネ自給の街づくりを通じて、地域内でお金を回す、そのためのソーラシェアリング（自然エネルギー）事業の展開です。

そして、この事業は大規模ソーラ・メガソーラでなく小規模・分散型だということが特徴でキーポイントです。あくまで地域農業の規模・特徴に沿ったソーラ設置です。それに全国地銀連のトップクラスと言われる横浜銀行がソーラ設置に融資を開始したことは大きな話題を集め、多方面に大きな関心と影響を与えていました。

§ 農家カフェ S I E S T A も始める。

2021年には農家カフェを開設、オープンしました。今回の視察での昼食場所はこのカフェでしたが、地元の食材をふんだんに使ったもので（一人1000円）大変好評でした。

§ 農地転用手続きなどの支援も行い事業推進してきた。

農家（土地所有者）の方々は当初、農転手続き面倒だ、と言っていましたが、それらも一緒に取り組み解決していました。

「荒れ地を耕し、心を耕す」という理念もと、小田原かなごてファームは地域の農業を守り・再生させ、「お昼寝していた土地」に新しい価値を生み出すことに取り組み、少しずつ、確実にその成果が広がっていると感じます。

【所感】

以上が小田原かなごてファームを視察し、学んだ内容です。

これらの取り組みは中山間地農業が主体の宮古でも大いに参考とすべき内容を含んでいると考えます。

耕作放棄地が増えていること、ソーラパネル設置でも作物は育つこと、またその土地に合った作物をつくること、売電収入と作物収穫による収益の二刀流が可能なこと、農地転用手続きもしっかり支援してきたこと、そして地元金融機関に対しこの事業の意義と採算性を訴え続け理解と支援（融資）を得てきたこと、などです。

以上

